

第37回 SEA教育ワークショップ2023

主催：ソフトウェア技術者協会（SEA）・教育分科会（sighedu）

生成 AIによる学校教育、企業内教育の変革

～ 急激な進展！今こそ出来る教育改革の実践事例研究・討論 ～

私たちソフトウェア技術者協会教育分科会では、グローバルな情報通信社会におけるソフトウェア技術者 や情報処理技術者をはじめ広く一般の技術者育成および教育について、官民・産学を問わず各方面の方々と共に研究活動を展開しております。

ChatGPT に代表される生成 AIが急速に認知され、官公庁や企業だけでなく一般社会生活でも利用され始めています。慎重論もありますが、利用方法を誤らなければ教育現場をドラスティックに変革することが可能です。

第37回SEA教育ワークショップ2023では、こうした最新テクノロジーの活用を前提として、技術者の、分析、思考、創造、情熱、そして倫理観などの能力をどのようにして育成できるかについて、参加者の事例を通じて徹底的に議論します。教育関係者の方をはじめ、広く生産性の向上を担っておられる皆様の参加を募りました。

なお、新型コロナは5類感染症に移行しておりますが、できる限りの感染予防をしております。

1. 日程

2023 年 10 月 12 日(木)～14 日(土)

2. 会 場

亀の井ホテル赤穂

〒678-0215 兵庫県赤穂市御崎 883-1 0791-43-7501

<https://www.kanponoyado.japanpost.jp/yaidu/index.html>

3. 参加者一覧

氏名	会社	所属	役職
鈴木 克明	武蔵野大学	響学開発センター	教授（センター長）
米島 博司	パフォーマンス・インブルーメント・アソシエイツ		代表
牧野 憲一	プラスワン・アシスト		代表
辻 達諭	L&Cトレーニング		代表取締役
井ノ上 憲司	大阪大学	スチューデント・ライフサイクルサポートセンター	准教授
和田 勉	長野大学	教職課程高等学校情報科	元・教授 非常勤講師
大石 奨	豊田市消防本部・熊本大学	中消防署消防1課救急担当・教授システム学研究センター	担当長・連携研究員
若山 昇	帝京大学	法学部	教授

4. プログラム

月日	時刻	時間	セッション内容	発表者(担当者)
10月12日	13:30	0:30	<現地集合・受付>〒678-0215 亀の井ホテル赤穂 TEL:0791-43-7501/FAX:0791-43-7503	受付:牧野
	14:00	0:30	オリエンテーション、自己紹介、プログラム調整	
	14:30	0:50	①事例活用はどこまで有効か	牧野 憲一(プラスワン・アシスト)
	15:20	0:10	(休憩)	
	15:30	0:50	②コミュニケーションの不完全さについて	米島 博司 (Performance Improvement Associates)
	16:20	1:00	入浴・休憩	
	17:20	2:00	夕食(懇親会)	—
	19:20		オフレコミッドナイトセッション	—
月日	時刻	時間	セッション内容	発表者(担当者)
10月13日	8:00	1:00	朝食	—
	9:00	4:30	(地域見学・昼食)	
	13:30	0:50	③PBLにおける受講者のサポート	井ノ上 憲司(大阪大学)
	14:20	0:50	④情報教育に関する海外事情 —中国(大陸)・韓国・スリランカ—	和田 勉(長野大学)
	15:10	0:10	(休憩)	—
	15:20	1:00	⑤非認知的能力の測定について	若山 昇(帝京大学)
	16:20	1:00	入浴・休憩	—
	17:20	2:00	夕食(懇親会)	—
	19:20	3:00	オフレコミッドナイトセッション	
	22:20			
月日	時刻	時間	セッション内容	発表者(担当者)
10月14日	8:00	1:00	朝食	—
	9:00	1:00	⑥医療系専門学校非常勤講師の授業設計	大石 奨(豊田市消防本部)
	10:00	0:10	(休憩)	—
	10:10	1:00	⑦ヨットセーリングを使ったチームビルディング研修の開発	辻 達論(L&Cトレーニング)
	11:10	0:50	⑧最新ID関連話題 ID七カ条	鈴木 克明(武蔵野大学)
	12:00	0:10	総括	
	12:10		(解散)	

5. 教育ワークショップ参加者感想文 ※発表順

■牧野 憲一(プラスワン・アシスト)

私の発表は7月に開催した「事例研究会」の続きで、某ソフトウェア開発会社で担当している新入社員教育からです。技術教育ではなく、「企業人として生きる」がテーマです。理解促進のため教育項目に沿った事例をふんだんに取り入れています。



最近世間で話題になっている、誰もが知っていそうな企業である、教育項目に相応しい事例を選んでいきます。中には大きな話題になっていないといけないうのに隠されている事例もあります。

事例の大半がニュースとして取り上げられているから社会悪が強く、将来のある新入社員の夢を潰すことになるとの指摘をいただきました。その通りかもしれません。次年度は夢を持てる明るい事例も探してみることにします。

事例をうわべで捉えるのではなく、その現場にズームインして、その場面で交わされている会話や表情を想定することで、よりリアリティに、より身近に感じることも。偏見や固定観念をもって臨むことは危険ですが。

自分の発表のことはここまでとし、大石さんの発表中に発言した内容を改めて記載しておきます。

テストの得点が何点であろうが、誤った回答をした部分のフォローが必要との持論があります。理由は簡単です。間違った回答に該当するケースに遭遇した時に、現場で対応を失敗する可能性が高いからです。救命士の現場での失敗は致命的になる可能性があります。100点満点を合格点とすることは現実的ではないため、合格点達成とは別に間違った部分を後日でよいから理解させる何らかの仕組みを構築されることをお勧めします。テキストを見て正解にたどり着くもよし、上司や同僚から指導を受けるのもよし、フォローがあってすべてを理解したことが大石さんにフィードバックされれば完璧ですね。元々テスト問題は「これは絶対に理解しておかなければならない項目」を出題するのは当たり前のことですが。これらの一連の考え方を「人材の品質保証」と言い、上記はその一部です。教材としてのスライドがあるので別途お送りします。

若山先生のトランプから「非認知能力の測定」も楽しかったです。実感してもらいたい想いでゲームを実施されましたが、限られた時間では厳しかったですね。ゲームを通じた過去の統計を示していただき、非認知能力との因果関係をどのように捉えたかを教えていただきたかったです。そうするともっと熱い議論ができた気がします。

全員の発表に対するコメントができなくてすみません。どの発表も熱意をもって取り組んでおられることがよくわかり、楽しく拝聴させていただきました。ナイトセッションは今年も熱かったです。辻さんのギターも素敵！

■ 米島 博司 (パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ)

ソフトウェア技術者協会の教育ワークショップも今年で第37回を迎えることとなり、毎年感じるのですが随分と長く続けてきたものだと思えます。今年は参加者が8名と少数でしたが、その分時間をかけてじっくり議



論できた気がしました。赤穂の地は初めて訪れましたが、去年の焼津に似て、美しい海岸と瀬戸内に並ぶ小島の絶景の中での議論はいつも通り楽しく有意義なものでした。実行委員長の牧野さんはじめ、参加された皆様へ感謝します。以下に、発表された皆さんが発表されたテーマの感想を述べます。

● 牧野さん:「事例活用はどこまで有効か」

今年7月の事例研究会での発表テーマの続編で、新入社員に対する「社会とはこんなものだ」という、事例をベースにして、物の考え方や情報の読み解き方について気づきを促す教育でしたが、示された事例がどれもこれも若者に見せるには、大人として恥ずかしすぎるものばかりで、私自身「こんな社会で良いのか」と思ってしまうほど刺激が強いものでした。実社会においては、現実を直視することは重要なことなので、新入社員の皆さんには「こんな社会ではいけない！」と奮起してもらうことを願うばかりです。反対に、社会には手本となるような素晴らしい出来事もあるんだという紹介もあっても良いのではないかと、前回同様に提案させていただきました。

● 井ノ上さん「PBLにおける受講者のサポート」

こちら継続テーマの発表で、去年の後の進捗紹介と新たな研究課題の探究でした。PBLにおいて、グループのメンバ構成によってアクティブに動くグループと、そうでないグループが生じ、後者に対してシステムから何らかのサポートができないかという研究の紹介でした。グループ活動の状況に関しては、アンケートをもとにした数値分析による状況データがあるので、いかにしてそれを支援の材料とするかという研究は、現場での学習活動に直接的に貢献できるものであり、商品化も可能性のあるととても意味のある研究だと以前から感じていました。今回の議論が次の論文作成に役立つことを期待します。

● 和田さん「情報教育に関する海外事情 ―中国(大陸)・韓国・スリランカ―」

アジア諸国の情報教育の状況について知ることはなかなか得られにくい経験であり、日本の情報教育の遅れがくっきりと浮き彫りにされ、私たちソフトウェア技術者協会の活動の意味や重要性をあらためて思い知らされた次第でした。

● 若山さん「非認知能力の測定」

トランプカードを使って、一人一人順にカードを出すルールをホストが考え、他のメンバがカードを出しながらそのルール推測して、早く見つけた人が早く上がるというゲームを行いました。このゲームを通して非認知能力を測れないかという試みでした。個人的には、非認知能力という言葉と概念の定義の曖昧さが気になり、非認知能力を測定するというテーマからは少しずれたところで興味深くゲームを楽しませてもらいました。つまり、教育(あるいは議論の場)でゲームを活用することの効果を見直すことができ、大変参考になりました。

● 大石さん「医療系専門学校非常勤講師の授業設計」

専門学校での医療教育を Instructional Systems Design を用いて、改善していく経過を紹介され、その効果が明らかにされ、事例として素晴らしいものでした。やる気のない学生に対する対応についての課題をはじめ、今後のさらなる改善の展開が楽しみになりました。

● 辻さん「ヨットセーリングを使ったチームビルディング研修の開発」

チームビルディングになぜヨット?という単純な疑問がありましたが、なるほどチームビルディングには最適なシミュレーショントレーニングである方法だということがわかり、驚きました。欧米でヨットセーリングによるチームビルディングのトレーニングが広く利用されている理由がわかりました。国内で、これをこれから紹介していこうという辻さんの今後の経過報告が待ち遠しいです。

● 鈴木さん「ID 七カ条」

遺言がわりにとの切り出しでしたが、まだまだ早過ぎるので、ご希望にそって、足りない点などにつきみんなで議論を交わしました。私からは R.F.Mager の教えの底に流れている倫理観というか、学習者一人一人の可能性に対する信頼と、ある意味での深い愛情が Instructional Systems Design の根底にあるのではないかという提案をさせていただきました。

来年は第38回となる秋のワークショップですが、また新たなメンバも集って議論できるのを楽しみにしています。

■井ノ上 憲司(大阪大学)

今回のワークショップでは昨年に続きまして、「グループによる Project Based Learning を成功に導くための e ラーニングシステムの要件」の研究についての発表を行い、昨年からの進捗とこれからの進め方について、ご相談をいたしました。昨年発表した内容(PBL の結果が悪くなるグループの検出)については無事論文誌への採録が決まりましたので、それを基に「結果が悪くならないようにするための方策」をどのように定義するか、グループあるいは指導する教員に対してどのようにアドバイスするかという点についてご相談して、いくつかの方策をいただくことができましたので、これを元に研究を進めていきたいと思います。

今回は、当初割り当てていただいた発表時間のときに、データ整理が不十分でうまく相談内容が伝えきれなかつたことから、鈴木先生ならびに牧野様・米島様、そして参加のみなさまのご厚意により、翌日に再挑戦の機会を設定いただいたことで、1回目の発表ではうまく説明できていなかったところが明確になり、みなさまからアイデアを頂くことができました。



このワークショップでは、一般的に10～20分程度の学会の口頭発表とは違い、60分程度の時間が与えられ質問と議論の中でみなさまの教育設計について深く知ることができますし、60分の発表時間では足りなかったとしたらナイトセッションなど追加の時間でさらに議論できるところが特徴で、活発な議論・質問の中で新しいアイデアを得ることができ、様々な捉え方について勉強になることがあり、大変貴重な場だと捉えています。

今回も企画運営される牧野様と米島様に大変お世話になりました。これからも継続的に参加していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回も企画運営される牧野様と米島様に大変お世話になりました。これから継続的に参加していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■和田 勉(長野大学)

➤ はじめに

私(和田)は、教育分科会(Sigedu)とのお付き合いはかなり長く、以前はこの教育ワークショップにもたびたび



参加していました。しかしコロナ禍になりそのさなかに長年勤めた長野大学の専任教員を定年退職し、かつ田舎(長野県上田市)に住んでいることから、ここ数年はSEAに限らずオンライン以外の会合への出席は最小限にしていました。そのためこの教育ワークショップへも何年も続けての欠席で失礼していました。しかしコロナ禍もやっとかなりおさまってきたおり、オンラインで月例会に参加した際に強いおさそいを受け、それではと久々に出席することにしました。

コロナ禍の間は、感染防止の観点から、やむをえず遠くへ出かける際もほとんど公共交通機関は使わず、ほとんど車で移動していました。コロナ禍がおさまってきたとはいえまだ気を抜くわけにはいかない状況であることから、今回もかなり遠距離ながら、上田市の自宅から車で行くことにしました。

➤ 2泊3日のワークショップに9泊10日で参加

会場である赤穂へは車で7時間以上かかる距離なので、どうしても前泊・後泊が必要になります。幸い、会議等もほとんどは出先からオンラインで出席できるようになったこともあり、以前に比べて自分の時間の自由が効きます。それならば…と考え始め、計画はしだいにふくらみ、ワークショップは2泊3日なのに、以下のように、9泊10日の旅行にしてしまいました。

ワークショップ内の行事として、13日午前、参加者全員で「赤穂市立海洋科学館・塩の国」へ行き、海水をすでに濃くしたもの（鹹水）を、3人で竹べらでかきまわしながら卓上コンロで温めて塩を作る、という体験をしました。その後は赤穂城址およびそれに隣接する赤穂大石神社を訪問してホテルに戻り、昼過ぎからワークショップを続けました。

2023 年 10 月	行程	車走行時間 等（概数）	
10 日	長野県上田→ 名古屋付近	4 時間	名古屋で、同地の企業に勤めている元・留学生（スリランカ出身）と会う。
11 日	→奈良→大阪	2 時間半	奈良公園（東大寺）に立ち寄る。大阪で、同地で起業した元・留学生（中国出身）と会う。
12 日	→赤穂	2 時間	昼過ぎ ワークショップ開始
13 日	赤穂市内	30 分	午前「赤穂市立海洋科学館・塩の国」と赤穂城址
14 日	→フェリー で小豆島	1 時間＋乗 船 1 時間	昼までワークショップ、終了後に日生（ひなせ）から車ごとフェリーに乗船。
15 日	小豆島内	30 分	ホテルのテラスから情報処理学会のオンライン委員会に出席。Zoom で小豆島の海の風景を生中継。
16 日	→フェリー で神戸	30 分＋乗 船 3 時間	夕暮れに明石海峡大橋の下を通過。
17 日	→大阪府 堺	2 時間	11 日とは別の元・留学生（中国出身）とその御家族（御主人は韓国出身）と会う。
18 日	→名古屋	2 時間半	10 日と同じ元・留学生およびたまたまスリランカから来たその知人と会う。
19 日	→長野県上田	3 時間半	長野大学に寄って担当授業後、10 日ぶりに帰宅。

➤ ワークショップ内容について

ということで、本題ではないことを長々書きましたが、本題のワークショップの内容についての感想を記します。御参加は少人数（1 日目 6 名、2 日目 8 名）であったこともあり、充実した討論ができました。和田自身の発表とし

ては、情報処理学会論文誌に招待論文として執筆し掲載された「情報教育に関する海外事情—中国(大陸)・韓国・スリランカー」[1]を持ち込んで、その内容を中心に、この3か国についての情報教育を中心とする現状について知るところを御話しました。

他の方の御発表は、いずれも興味深かったです。中でも、大石 奨様(豊田市消防本部・熊本大学)の、現役で救急救命士として消防署に勤務し現場業務にあたっておられるいっぽうで、これから救急救命士を目指す人たちに教えておられる体験からの御話はたいへん興味深かったです。私(和田)からも、その授業内の試験の方式などについて、思いつく助言をしました。また、若山 昇様(帝京大学)の、認知能力と非認知能力に関する議論も、その定義まで立ち返った興味深い議論に加われました。井ノ上 憲司様(大阪大学)の、グループワークに関する研究の進め方・そのデータの見方についても議論し、私の考えも申し上げました。ほかすべての御発表に関しても、すべてたいへん興味深いものでした。

➤ 「大石」様たち

全くの偶然というかこじつけですが、今回のワークショップとそれを含む和田の旅行は、「大石」様に御縁のあるものでした。ワークショップは赤穂すなわち忠臣蔵なのでもちろん「大石」内蔵助・主税の地元で、上記のように大石神社も訪問しました。かつ、上記のようにワークショップ参加者にも「大石」様がおられました(当地とは無関係とのことでしたが。)

ここまではワークショップでのことですが、和田は上記のようにそのあと小豆島に寄りましたので、ここは「二十四の瞳」すなわち「大石」先生の舞台です。その映画撮影セットの跡地「二十四の瞳の映画村」にも(二回目なのですが)寄ってきました。

以上の、現在過去・実在架空含めた、計3組4人の「大石」様にこじつけて文を締めます。

参考文献

[1] 和田 勉「情報教育に関する海外事情—中国(大陸)・韓国・スリランカー」、情報処理学会論文誌 教育とコンピュータ Vol.9 No.6 1-9 (June 2023), pp. 1-9.

■若山 昇(帝京大学)

木曜日授業終了後に現地に向かったので、到着が夜遅くなってしまいました。当方発表テーマは非認知能力の計測に関する事であり、皆さんと討論を行いました。そもそも、非認知的能力は、従来のテストなどでは、測定ができない。そこで従来の方法にとられない手法で測定する必要がある。今回はトランプゲーム E(仮称)を活用することとした。

発表時間の最初に非認知的能力の説明、本実験を考えるに至った背景、経緯、目的などを端的に説明した。



残りの時間は実際にトランプゲーム E を、参加者全員に行ってもらった。なぜなら、実際にゲームを行うことでゲームに対する理解が深まり、実験の諸課題を議論しやすくなるからである。

実際にゲームを行ってみると、学生よりも先生の方が、ゲーム進行が遅い。つまり、早く上がれないという、奇妙な現象が起きた。先生方がゲーム終了後、感想などを議論したところ、その原因が分かった。さらに、このゲームで何がどこまで測れるの？など、様々な課題を洗い出すことができた。これは、大きな収穫であった。

研究内容の詳細をここに書くのは控えるが、今回のワーキンググループの発表の中で、おそらく最も議論が白熱したテーマであったような気がする。ご協力くださった参加者の皆さま、誠にありがとうございました。改めて、ここに御礼申し上げます。

■大石 奨(豊田市消防本部)

2015 年の三重県湯ノ山温泉から 2 回目となる SEA 教育ワークショップ参加でした。

私の発表は、救急救命士を育成するための専門学校での授業設計に関するものでした。この学校は、救急救



命士(救急車に乗車して医療機関への搬送途上に傷病者への救急救命処置を行うほか、最近では医療機関の救急処置室において医師の診療補助として救急救命処置が実施できる資格です)の国家資格受験資格を得るために 3 年間の履修をする専門学校です。学年構成は、1～2 年次は救急救命士に必要な人体の解剖生理学や疾患などの病態生理学を学び、3 年次は病院実習や国家試験対策を行います。私は、昨年度からすべての学年での非常勤講師を務めており、初めての専

門学校での授業設計を経験し、初年度と 2 年目となる今年度の授業設計の内容を報告させていただきました。その中で、以下の 2 点について振り返ります。

1 点目は、最終のポストテストに持ち込み可能としたことを振り返ります。90 分×8 回の最後に学習成果の確認としてポストテストを実施しましたが、初年度は 1・2 年次の学生に対して「ポストテストに、なんでも持ち込み可能」とした実施形式についてご指導をいただきました。「なんでも持ち込み可能」とした私の考えは、「持ち込んだ資料から当該部分を探し出し、適切に回答を導き出せる能力が身についているかも評価する」こともねらいとして、どのようなものでも持ち込み可能としたことがあります。しかしながら、私が作成したポストテストの設問は、空欄に

語群から回答させる選択式をとっており、持ち込み資料を見なければ解答できないものになっていました。そこで、今年度は「持ち込み資料は、自作のものに限る」として提示しました。この点に関して、会場の皆様からは自作持ち込み資料に条件をつけることも考えるべきで、例えば持ち込み資料を配布した A4 用紙 2 枚にまとめることなどの取り決めを作ることで学生自身が学習の整理につなげているとの実践事例のご指導をいただきました。現状は、大多数の学生がテキストを丸写しして持ち込んでいる現状があるために、次回から改善していく考えです。

2 点目は、ワークショップ中の発表時間 60 分間の使い方を振り返ります。今回は、60 分間の時間をいただきました。けれども、初年度の報告に時間を要して、肝心要の今年度の改善した事項の報告、次への改善に向けたご指導をいただく時間がなくなってしまったことが悔やまれます。消防署に勤める私が、このワークショップに参加させていただいた目的は、さまざまな分野でご活躍の経験豊富な方々から幅広い知見をいただくことでしたが、私が話し過ぎたことにより貴重な時間はあっという間に過ぎていったのはとても反省しています。ただし、発表中にも多くのご指導をいただいて、これからの授業設計や本職でも生かせることをお聞きできたことは幸せな時間でした。

今回は、ワークショップ 2 日目の朝に勤務を終えて愛知県から向かい、実質は 2 日目昼過ぎから 3 日目最後までと短い時間の参加でしたが、途中参加にも関わらず暖かい雰囲気に入れましたことに心から感謝申し上げます。赤穂観光も、バス車窓からの雰囲気を楽しむことができました。最後になりましたが、幹事の牧野さん、そして皆さんありがとうございました。次回もぜひ参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。

■辻達 諭(L&Cトレーニング)

泉岳寺を満員の車窓から見、新橋・田村町を歩いた長年の通勤途上で意識しつつも、ついぞ訪れることがなかった赤穂に初訪問。2 日目午後より参加の小生は、JR 駅前の大石内蔵助の銅像を鑑賞し、赤穂城址までの約



1 キロの城下町風情の駅前通りを歩き、昼食会場の居酒屋(店名脇の表示はそうになっていた)で一行と交流。

「昼食は、穴子天井と穴子重のどちらを選ぶか？」の鈴木先生からの連絡電話で、瀬戸内の海浜であることを実感。穴子、美味かったです。北品川でよく食べた穴子の味も思い出しつつ、江戸詰のかの浪士も江戸前で故郷の味を思い出していたのかも、と妄想が湧く味でした。

先行参加の諸先輩の近況を伺いつつ、宿泊兼ワークショップ会場のホテルに移動。海の眺めとお湯の素晴らしい会場選択で、昨年のワークショップのことが一気に思い出され、名幹事牧野さんの差配ぶりにと時の流れが加速しているように感じて、私のワークショップはスタートいたしました。

発表内容のバラエティが豊富で、普段は知ることのない話、情報に触れる機会の本ワークショップは、日頃の仕事の大きなヒントになっています。毎年の参加は叶わなかったですが、時折の参加でも、発表内容に対する諸先輩からの厳しい指摘、示唆が懐かしくもあり、近年は同窓会的な集まりで昼夜の議論が心地よい時間感じられます。

なかでも、「非認知能力の測定」について発表される内容と議論には、リーダーシップやコミュニケーションのトレーニングに関わる小生としても深く考えさせられました。鈴木先生の「認知能力の補集合」の一言は強烈でした。

和田先生の中国、韓国、スリランカでの情報教育についての方向は、「情報」という同漢字でも中韓と日本では異なる意味があることに妙に感心いたしました。

また、鈴木先生のID7か条(暫定版)は、座右に置き、人材育成の取り組みの指針としたい内容でした。

大石氏の医療系専門学校における救急救命士受験のための医療教育への取り組みの困難な状況を知り、ワークショップで得られたものを生かした発展(と労苦)を来年のワークショップでは労いたいと期待を持ちました。

井ノ上先生の「チームワークをより良いものにするLMSによるサポートの研究(筆者の理解による表現)」も今後の進展が楽しみなものでした。

小生発表の「ヨットを使ったチームビルディング研修の開発」には、企業人、組織人の参加の必要性をご理解いただき今後の励みになりました。

時に厳しい指摘、批評にさらされるワークショップですが、なかなか取り組み難い挑戦的なテーマへ自らを鼓舞する機会としても、今後も参加をしたいと希望します。職場での教育の実践に苦勞されておられる方の新たな参画をお待ちします。

■鈴木 克明(武蔵野大学)

米島プログラム委員長、牧野実行委員長、お世話になりました。毎年のこととはいえ、様々な準備にご苦勞されたことと拝察します。そのおかげさまで、ご参加のみなさまと、とても楽しい時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。



赤穂でつくった自作の塩を持ち帰り、タイミングよくNHK朝ドラの再放送「まんぷく」での塩づくりのシーンをみながら、まだ、ちびちび使っています。また来年も、どうぞよろしくお願いします！

私の発表は、熊本大学同窓会が不定期発行している ID マガジンに連載中の記事が 100 回の節目になったのにあたり開陳した思いを聞いていただき、過不足はないか、よりよい表現はないかななどを議論してもらいました。

詳細は「【連載】ヒゲ講師の ID 活動日誌(100) : 受け継いでほしい思い: ID を考える前提と ID7 か条」

(https://idportal.gsis.jp/magazine/doc_magazine/1192.html)にあります。熊本大学を定年 1 年前に退職し、本年 4 月から東京に居を移し、最大 6 年間(70 歳になるまで)、新天地で働くことになりました。そのあたりの顛末は同じ連載の第 99 回で、また新天地での働き具合については連載 101 回で読んでいただけます。新春フォーラムや事例検討会を含めて、時折 SIGEDU に刺激を受けながら、健康に 70 歳を迎えることを目標に、少しずつ歩みを進めています。みなさま、またお会いするまで、どうぞご自愛くださいませ。ではまた来年！

6. ワークショップ写真集



会場・亀の井ホテル赤穂での参加者記念撮影(2023.10.14)



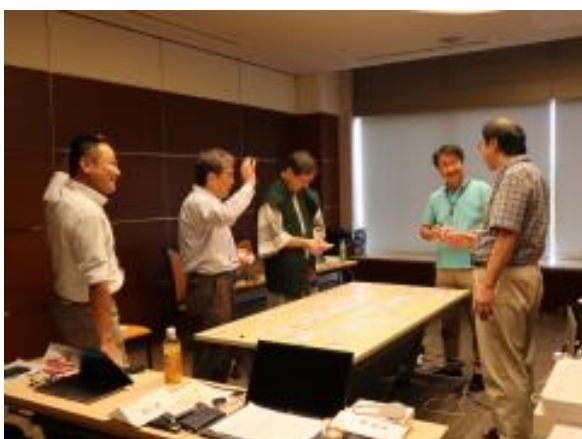
会議室でのセッション風景



夕食&懇親会



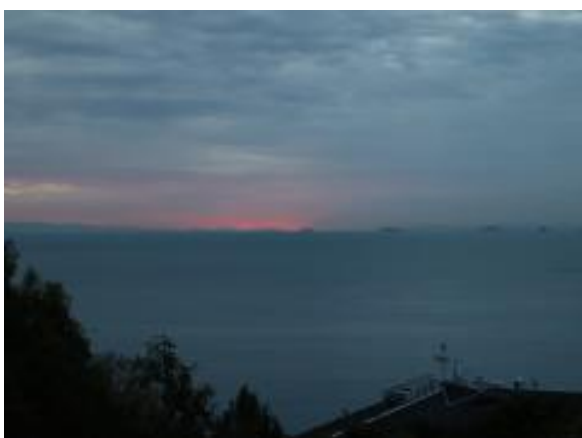
夕食後も会議室でナイトセッション



若山先生による非認知能力測定実験



会場・亀の井ホテル赤穂全景



亀の井ホテルから見た瀬戸内海の夜明け



亀の井ホテルから見た瀬戸内海の島々



赤穂海浜公園での塩づくり(1)



赤穂海浜公園での塩づくり(2)



赤穂城跡



大石神社

7. 編集後記

昨年のワークショップを終えるときに次回の候補地は「広島県・尾道」としておりましたが、予定していたホテルが営業を停止しており、開催することができませんでした。恐らく新型コロナの影響と察します。とても残念です。尾道からJRに沿って関西方面にたどり、赤穂を新たな候補にリストアップしたのです。赤穂には亀の井ホテルが存在し、昨年の亀の井ホテル焼津が好評だったこともあって、コンタクトを取り始めました。

赤穂と言えば誰もが「赤穂浪士」を思い浮かべますね。私も同様です。ワークショップでは現地に触れることを重視しており、赤穂城跡から大石神社を訪問することになりました。その前に訪問した赤穂海浜公園では塩づくりを体験。18%まで濃縮した海水を鍋で煮詰めて塩にします。帰宅後、おにぎりに塩をまぶしたところ、口に入れた瞬間は塩の味がするのですが、すぐにマイルドになり、ずっと辛さがきえていく、そんな初めての触感に驚きです。

さて肝心のワークショップですが、今年は8名の参加、うち3名は途中からの参加でした。教育分科会のワークショップは共通のテーマに沿うものではなく、各自の日頃の取組みを中心に、1年間の活動から感じている課題を発表し、アドバイスやヒントを持ち帰り、また1年間活動するサイクルを繰り返す仕組みになっています。質問は最後にまとめてではなく、その場で解決が定番です。質問によって本筋から離れていくことがありますが、最後には戻ってくる、そんな不思議な進行です。ナイトセッションは予め担当を決めるのではなく、その日のセッションの中から時間が足りなかった発表に充てる仕組みです。夕食のアルコールの影響もあって熱くなりますよ。このような激論ができる学会やワークショップは稀有らしく、貴重な存在だそうです。

ここ数年の傾向ですが、企業からの参加が少なくなっています。コロナの影響も残っており、許可を得るのに一苦労とも聞きます。私たち主催者は参加者の満足度を高められるよう、開催地の選考、施設の選考を心がけております。次年度の開催日も決定しております。今からスケジュールを確保して、1年間の活動に邁進され、ワークショップで発表していただけることを楽しみにしております。

8. 次年度開催日程

参加者の日程を確認して、次年度の開催日程を確定させました。参加されたメンバだけでなく、今年参加できなかったメンバも手帳を開いて、日程を確保しておいてください。

第 38 回 SEA 教育ワークショップ開催予定

2024 年 10 月 10 日(木)–12 日(土) 開催地は調整中

以上